
今日も戦線に異常あり

れいぶん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日も戦線に異常あり

【Nコード】

N5017I

【作者名】

れいぶん

【あらすじ】

「小学生たちが織りなす表面上は優しくも内面はドロドロとした小学生事情」――ご一読いただければ幸いです。

開戦前年

1999年12月31日、世間がやれミレニアムイヤーだ2000年問題だとかノストラダムスはインチキだったとか言っているとき、柳の原小学校5年2組の大体3分の1にあたる面子が江頭家に集まった。(ちなみに江頭の読み方は「えがしら」ではなく「えとう」だ。)

集まった内容はというと最近の5年6組による、しつこいまでの併合勧告についてだ。併合勧告って何ぞや?と思っっている紳士淑女の諸君にこの小野彰吾(ちなみに読みは「おのしょうご」。)が僭越ながらその概要を説明したいと思う。まず、柳の原にはたくさん山がある。これは、柳の原が山だったところを平地にした所以だ。しかし、嘆かわしいことに、最近柳の原にも不法投棄の魔の手が伸びてきている。そのような事があっても、山というフィールドは秘密基地の恰好の場所となる。そして、不法投棄は、本格的な秘密基地を作る上で欠かせない鉄を豊富に提供してくれる。そのようなことを踏まえて、ある意味では、柳の原は、秘密基地を作ることにおいては、最高の土地と言えるのだ。

さて、このようなことから察しの良い読者たちには判ると思うが、この話は秘密基地関連の事だということだ。

ハイ、「へっ秘密基地なんて幼いしだっさー」と思ったそこの君!もちつと読んでいけばこの話が、いかに深い話かはわかってもらえるからウィンドウを閉じないで!

さて、秘密基地といっても、ここら辺の秘密基地は一般的な秘密基地とは一味違う(と思う。)

え!?襲撃!?こんな大晦日に?どんだけ暇なんだよ5-6は!
早く基地に行かないと、俺達の基地が!銃が!エロ!げぶんげぶん!ここは江頭の家だぞ!江頭ママに俺の思考が読まれたらどうする!...

んなわけないか…でも俺はあの人が苦手だ。なんか人の考えてることを読み取れるかのような…

おおっと待ってくれよ！取りあえず緊急用に持ってきておいた1900円シリーズの愛銃MK23と予備マガジン3つを持って雪のちらつく大晦日の夜道を仲間と走って行くのか…憂鬱だが、いつちよ行つてやるか…！！

わっ、

おい、ちょっと待て、

なんだ？

この感覚…

何か異物が

俺の中に

入ってくるよじな、

この異物を

体全体が、

全力で

拒否してる。

でもそれに、

抗ヒト抗体は

それは、

俺の中へ、

入ってきた。

俺の精神に

相手のイメージが、

直接映り込んでくる。

「やあ。また会ったな。」

誰だ？お前に会った覚えなど無い

「違う。おまえでは無い。そのMK23、そいつへ言っているのだ。」

このエアガンに？とんだお門違いだ。これはただの1900円シリ
ーズのエアガンだ。

「違う、お前はそれを買ってはいない。捨ったのだから。」

ああ、そうだが、それがどうした？

「それは普通のエアガンとは違うということに気付かなかったのか？」

なんだって？これは皆が使っているのと同じエアガンだぞ。強いて
言えば、グリップの部分がえぐれていることくらいだ。

「やれやれ、やはり気付いていなかったか。そのエアガンはそこから

の市販されてるものよりも遥かに性能の上回るものだといつのに。
これでは宝の持ち腐れではないか。」

お前は誰だ。去れ。

「良いだろう。今は去ろう。しかしいざれ私の力が必要となる時が来る。その時は、我を呼べ。心で呼びかければ直ぐに馳せ参じる。では、このたびは去らばだ。わが主よ。」

さて、（後書き）

前回とは全く違う展開になってしまいました。すみません。次回からは通常（前回のような）展開としますので、よろしくお願いします。

覚醒

さて、今のは何だったのだろうか？たしか俺のエアガンは特別だと言ったよな。エアガンを見てみる。確かにグリップはえぐれているが、それ位しか特徴は無い。

そんなことを考えていると、突然頭にひやりとするものが突き付けられた。その突き付けたやつは「手を挙げる。そして武器を遠くへ投げ捨てる。従わなければこいつが火を吹くぜ。」と言った。

恐る恐る後ろを振り向くと、ガスボンベ式のエアガン 暗闇なのでよく分からないが、アサルトライフルの類の様だ。それが俺の頭に突きつけられていた。それだけなら問題ない。エアガンを当てられても、少し痛いくらいだ。問題はそいつが繋げているガスボンベだ。本来ならばエアガン用のガスボンベが付いているはずだが、俺の目に入ってきたボンベには炎のマーク つまり可燃性のガスであることを表すマークが付いていたのだ。それを見た瞬間、俺は凍りついた。こいつが引き金を引けば本当に火を噴きかねないのだ。

「判った。」そう言っただけ俺は武器を投げ、手を挙げた。そういえばこのエアガンを投げたのはこれが初めてだったかな。

その瞬間、俺の中にまたあの異物が流れ込むような感覚が起こった。何か大きな渦に巻き込まれるようなそんな感覚が俺を襲った。目を開けてみるとそこは見慣れない空間だった。そう。空間。それ以外に表現しようのない様な所に俺はいた。周りは真っ白ではなく続くその空間に声は木霊する。

「何してんだよ。イテえじゃねえかよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5017i/>

今日も戦線に異常あり

2010年10月11日16時00分発行